

この動画はこんな時に!

子どもたちの間で、
言い合いなど言葉を使った
トラブルが起こっているなあ

友だちの服装や髪型や
見かけをからかう子が出てきた

眼鏡、眼帯、髪形…見た目の変化を
本人が気にしているみたい…

友だちの持ち物に対して、
「これは男の子の色」という発言が出てきた

持ち物の趣味の違いで、
仲間外れにしている
みたいだなあ

お互いをよく知り合って、
より仲良くなっていきたい



動画といっしょにこんな遊びも

作成：山梨学院幼稚園 田村優子

活動案

チョイスゲーム

4つの選択肢を用意し、子どもたち一人ひとりが、
自分の好きなものを選ぶゲーム。

ねらい

「自分の好き」と
「他人の好き」が
同じことも、違うことも
あることに気づく。

対象

3・4・5歳児

ルール

教室の四隅に置かれた4つの選択肢の
パネル(写真やイラストなど)から、好き
なものを選ぶ。選ぶときには、友だちの
意見に合わせず、自分で考えて自分の
好きなものを選ぶ。ジャンルを変えて、
複数回実施する。

環境

広いスペース(片づけた保育室など)の
中央に子どもは集まり、ゲームの説明を
聞く。教室の四隅に椅子を置き、選択肢
の図像が描かれたパネルを1枚ずつ椅子
の上に設置する。

準備物

選択肢の図像がわかるパネル(見えや
すいサイズ、各回4枚×実施回数)

ジャンルや選択肢の決め方のヒント

例 ジャンル たべもの 選択肢 なす、トマト、ジャガイモ、きゅうり
ジャンル 色 選択肢 ピンク、茶、黄、青

園で問題となっているものを
選ぶと効果的!

例えば、「男の子の色は青色」といった
会話など、「性別と色」に関するトラブル
があるときは、ジャンルを「色」とし、
チョイスする4つの色を、何色にした
ら効果的か考えてみます。ほかにも、
服や持ち物の柄であだ名をつけられ
たり、グループ分けされたりする
ことに対して嫌がっている子がいると
きに、「柄」をテーマにするなど。

子どもの理由やコメントを
予想しておく

子どもたちの選択理由がとても
大切です。ゲームの中でそれら
を共有したり、一緒に考えたり
することができるように、あらか
じめ保育者間で話し合っておく
といいでしょう。

選択肢の中には、選択しそうなもの、
しなさそうなもの、どちらも入れる

好き嫌いが分かれそうなものなどを入れ
て、意見のバラつきが出るように設計しま
す。選択肢の数は、参加する子どもの人
数などによって変えてもよいでしょう。ま
た、「好きなもの」を選択させるだけでなく、
ゲームの回数を重ねていく中で「苦手な
もの」「イヤだと思ふもの」など、マイナスな
アプローチを選択させることがあっても
いいかもしれません。

■ チョイスゲームの流れとポイント

ゲームの流れ

ゲームの名前とルールを説明する

ジャンルと、4つの選択肢を紹介する

子どもたちがそれぞれ選択肢を選ぶ

- シンキングタイムを設けた後に、その選択肢パネルのある場所に一斉に移動する。

子どもたちに選択理由をインタビューする

- 3歳児の場合は、理由を聞き出すことをねらいとせず、好きなものを自分で選べることを大切にする。
- 1つの選択肢の中で、複数人に理由を聞き、同じ選択でも理由はさまざまであることを示していく。

ジャンルを変えて、①～④まで行う

まとめのことは

保育者の関わりのポイント

- 「チョイス」という言葉の意味を説明する。
- ゲームのルールが理解できるよう、大切な部分はゆっくり話したり、繰り返し伝えたりする。
- チョイスするときは、友だちの意見に左右されず、自分で考えるということが大切であることを伝える。
- 選択肢の図像は、子どもたちがわかりやすいものを選ぶ。
- 選択肢パネルは、しっかり見えるよう、椅子などに設置する。
- ゲームが楽しい雰囲気の中で展開されるよう、オリジナルの歌やリズムに合わせて体を動かし移動するなど、工夫する。
- 子ども自身が選択肢パネルの前に移動することで、視覚的に「みんな好きなものが違うんだ!」と実感できるよう言葉をかける。
- 誰も選ばない選択肢があった場合、その選択肢が悪いものではないことを伝える。
- ▼ **こんなときは!**
 - 「どれも選べない」…
理由を聞き、理由が言えたことを褒めたうえで、今回は“ゲーム”なので、この中で「しいて言えば…」でチョイスすることを促す。(複数選びたい子がいた場合も同様)
 - 「同じ選択肢の人がいない」…
選んだ子が不安にならないよう、選んだ理由や自分の考えを大切にしたこと素晴らしさを伝える。
- すべての子の回答に、共感、応答、などしていく。
- 無理に理由を聞き出そうとせず、「何となくこれが好き!」ということをも認める。
- ▼ **こんなときは!**
 - 「選んだ人が少ないから」「誰かが選ばないとかわいそうだから」…
理由は認めて受け入れつつ、本当に自分はそれでいいのか、我慢をしすぎてないかを考える機会になるよう、言葉をかける。
 - 「ヘンなの」「気持ち悪い」…
友だちの選択肢について、ボソッとでも、マイナスの言葉が聞かれたときは、学びのチャンス! 動画のなかで、「ヘン」と言った“どん”にふれ、「ヘン」と感じるの悪いことなのか考える機会にする。同じように好きになれなくても、相手の好きなものを「大切にあげられる」ことが大事。自分の感じ方を他者に強制しないようにすることを伝える。
- ゲームを繰り返すことで、楽しさが増すようにする。
- グループ分けがねらいとならないよう配慮する。
- 子どもの様子を見て、何回行うか判断する。
- 自分で考えて選べたこと(理由も考えられたこと)、友だちの好きなものを聞いたことの両方が素敵だと伝える。
- P9の動画のシーン④にもふれ、自分と友だちの好きが違って、「大切にあげられる」ことが尊重であると伝える。

動画と合わせた活動の流れ

チョイスゲームをする

- ゲームを通して実体験したこと、動画の内容とを重ね合わせられるようにする。

視聴前の語りかけ

- 子どもたちの世界と動画の世界に、つながりを感じられるよう言葉をかける。



動画教材視聴

動画「あたりまえ認定～これってカワイイ?ヘン?」>



視聴後の語りかけ

- 質問しながら子どもたちの感じたことを引き出す。
- 話に出てきた場面を振り返りつつ、登場人物の気持ちに寄り添う。
- 動画と、自分たちの生活で起こりうる事例を結びつけて問いかける。
- 登場人物たちの帽子に対するさまざまな意見にふれる。自分と違う感じ方でも、その人の大切な感じ方であること、正解・不正解もないことを伝えていく。
- 「好き」が同じでも違っていても、お互いを認め合えることが、自分も他者も大切にすることだと感じられるようにする。



毎日の保育とのつながり

子どもたちに、一度のチョイスゲームですべてを気づかせようとする、保育者主導になりがちです。一度きりでなく、日をあけて、ジャンルを変えながら何度も行うことで、気づきや学びが生まれてきます。子どもたちが、自ら気づいたり、トラブルが起きたりしたとき「学びのチャンス」ととらえて関わしましょう。繰り返しの経験の中で、自分の気持ちを伝える大切さと、悪気なく伝えた自分の気持ちが他者を傷つけることもあるということへの配慮を、実感的に深めていけるようになるでしょう。



日常の保育の中でも、チョイスゲームだけでなく発表ごっこを設け、意図的に互いのことを知る機会を作るのもいいですね。「好きなことやもの」「嫌いなことやもの」「得意なこと」「苦手なこと」「行きたい場所」など、自分のことを語ることで、「自分ってどうだろう…」と考える機会にもなりますし、聞いている子どもたちも、友だちの新たな部分を知ることにもなるのではないのでしょうか。

一人ひとりの意見を保育者が認め励ましていくことで、「みんな違っていい」「どんな意見も言っていい」「どれが好きでもいい」と感じられるようになっていってほしいですね。